

福島第一原子力発電所 固体廃棄物貯蔵庫関連施設修理工事 『基礎杭補修作業中の作業員死亡災害』について

平成26年6月4日
東京電力株式会社



1. 工事概要

■工事概要

- ・工事件名：固体廃棄物貯蔵庫関連施設修理工事
- ・工事期間：平成25年11月6日～平成26年5月30日
- ・請負会社：東双不動産管理株式会社
- ・工事目的：ドラム缶の移送先となる建屋が、東北地方太平洋沖地震により損傷しているため、建屋の復旧工事を行う。

■作業内容

災害の発生した空コンテナ倉庫は、震災により基礎杭にひび割れ等の損傷が見られ、補修作業に伴い基礎杭を露出させるため、掘削作業をおこなっていた。

■工事エリア

空コンテナ倉庫他



当該杭の状況

2. 工事实施経緯

○東北地方太平洋沖地震に伴う原子力事故を受けて、敷地構内は放射性を帯びた瓦礫などが存在している。

それら瓦礫などからの放射性物質の敷地外への飛散防止と敷地境界線量低減を目的に、敷地構内に保管する建物が必要。

現在、瓦礫などを保管する建屋については逼迫しており、整備が急務である。これを受け、敷地構内保管場所を確保するため災害発生当該建屋を早急に補修することを計画していたものである。

※平成25年度に補修を予定していた建物は以下のとおり。

- 固体廃棄物貯蔵庫1棟
- 固体廃棄物貯蔵庫3棟
- デパレ・ラベリング室
- 空コンテナ倉庫（災害発生場所）
- 消火ポンプ室
- ドラム缶出入庫建屋

3. 災害発生概要と時系列

■災害概要

- ・災害発生日時：平成26年3月28日（金）14:20
- ・被災者：男性（55歳）死亡
- ・所属会社：東双不動産管理株式会社（元請会社）の二次協力会社

■発生状況

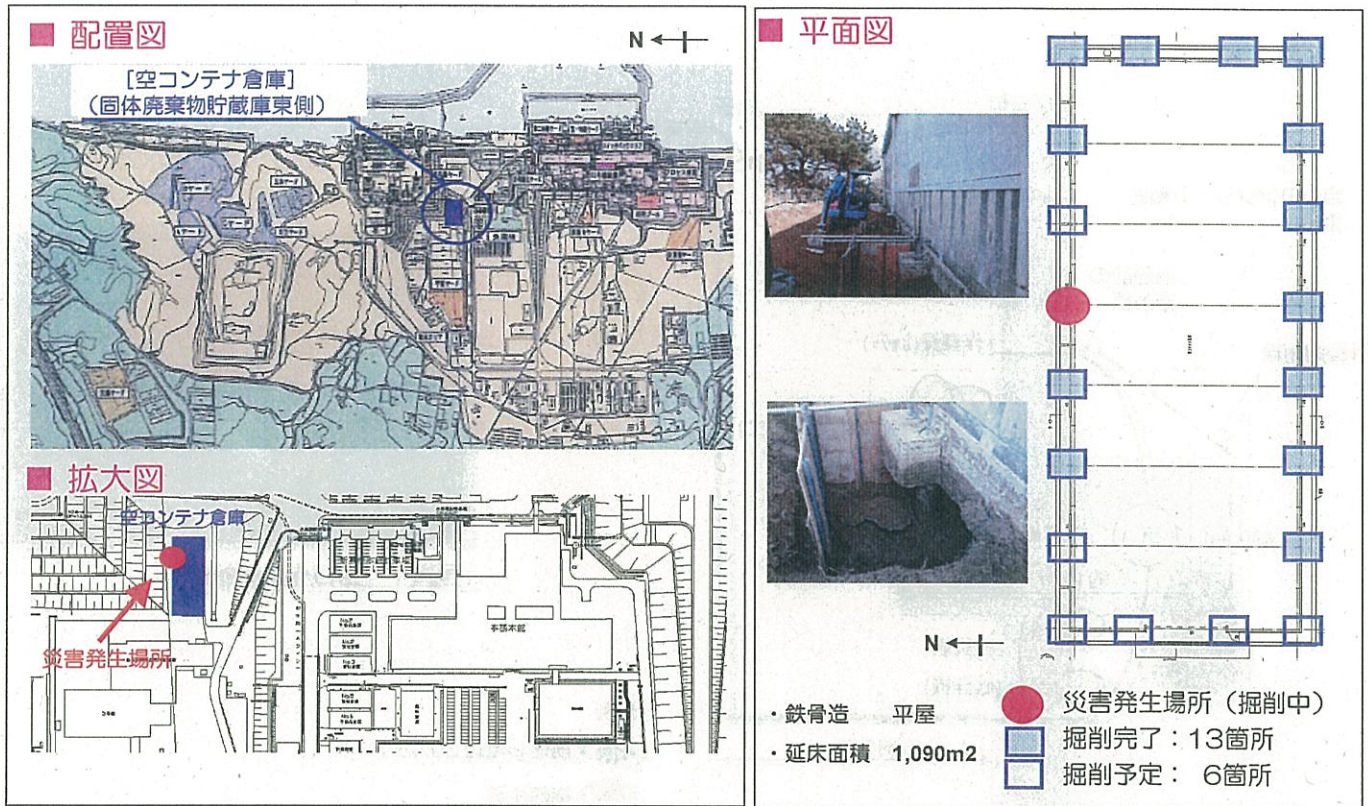
固体廃棄物貯蔵庫関連施設内の空コンテナ倉庫において、東北地方太平洋沖地震で破損した基礎杭の補修に伴い、事前準備作業として杭の損傷状況確認のため、地盤の掘削（災害発生場所では地盤面より約1.7m）を実施していた。

基礎下部の掘削時に発見された均しコンクリートのはつり作業を行っていた際に、均しコンクリートと土砂が崩落し、当該作業員が下敷きになり被災した。

■時系列

【3/28】	
7:45	TBM-KY
10:00	作業開始
12:55	昼休憩後、作業再開
14:20	災害発生（以降、被災者の救出・搬送・サーバイを実施）
14:31	復旧班長へ連絡
14:45	双葉警察署へ連絡
14:57	福島第一 入退域管理施設ER入室
15:02	救急車要請
15:15	救急車が入退域管理施設 到着
15:26	救急車にていわき市立総合磐城共立病院へ出発
17:22	いわき市立総合磐城共立病院の医師による死亡確認

4. 被災現場図

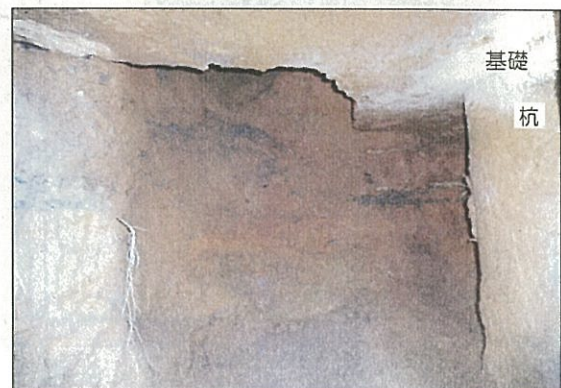


5. 原因 (推定)

○東北地方太平洋沖地震により沈下した土砂と共に、剥落していた均しコンクリートが掘削範囲内に存在していた。
 そのため、均しコンクリートを携帯型小型破碎機で小割解体しながら掘削作業を行っていたところ、均しコンクリートが、上部の土砂と共に被災者に崩落した。



崩落前の状況



崩落後の状況

均しコンクリートとは、上部に構造物を設置するため、地表面の凸凹を平らにすることに使われるコンクリートのこと

6. 災害発生状況（推定）平面図

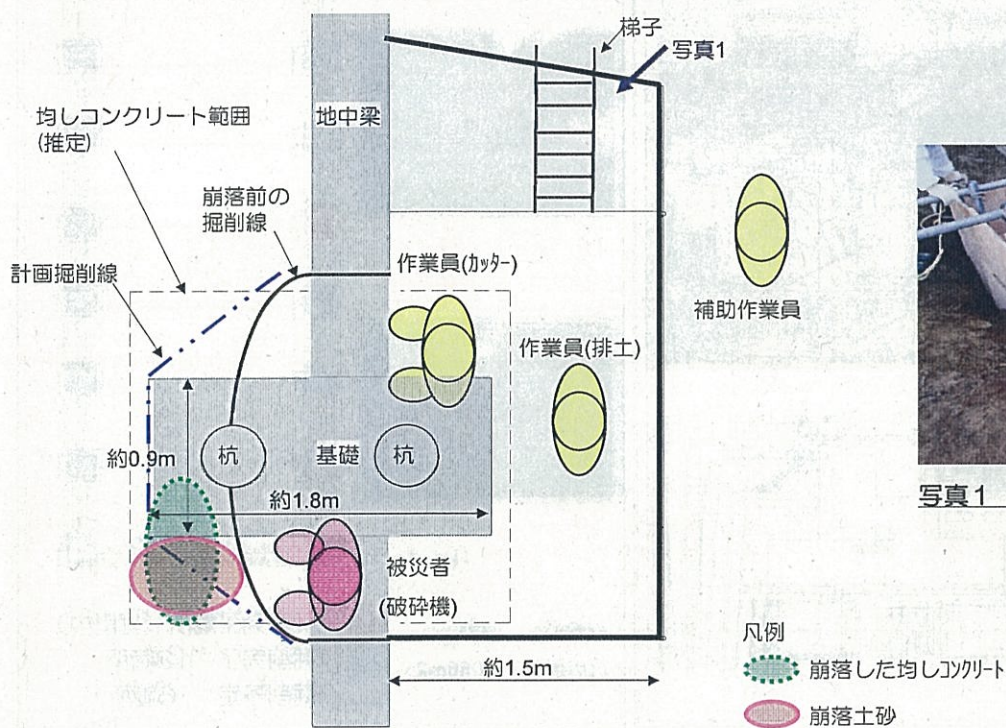


写真1 当日作業開始時

7. 災害発生状況（推定）断面図

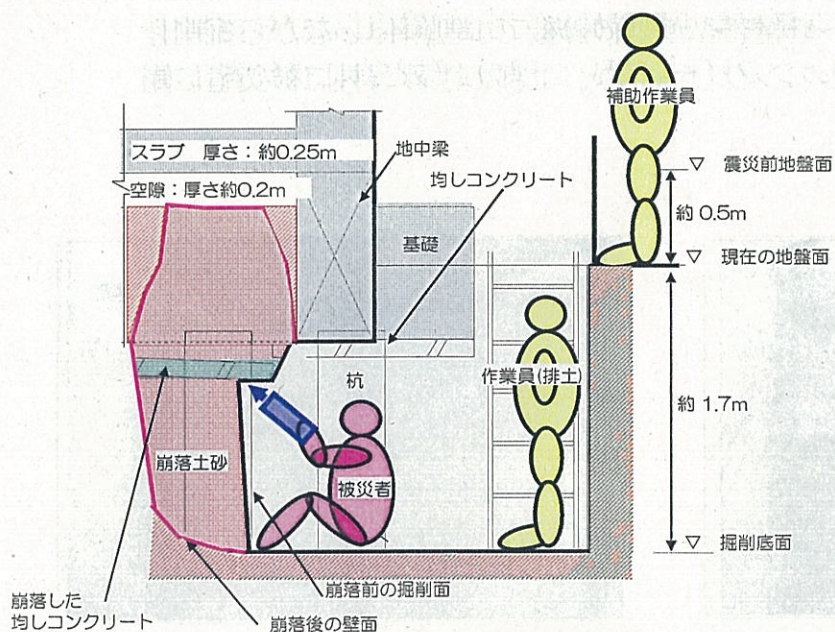


写真2
土砂と共に崩落した均しコンクリート

8. 再発防止対策検討状況

災害発生以降、災害発生防止対策を検討するに当たり、左記の体制を整え検討を行っている。

検討主体を所内のトラブル検討会を置くとともに、本店各部を含めた多くの関係者に指導・助言を頂き、現在は災害発生に至る背後要因の深掘りを実施しているところである。

なお、本災害は現在も警察、労基等の調査が継続されていることから正式な見解後、当社の対策を精査し実効性のある対策を立案することとする

1F死亡災害の取り組み体制

